

ペルー ブルーベリーの輸出が急増し過去の記録と予測を上回る

[FreshPlaza](#) 2024年11月11日

ペルーのブルーベリー産業は、近年の高い生産量を上回ることで、回復を顕示した。この成果は、品質と生産性の向上をもたらした優れた品種の導入によるものである。市場における業界の存在も強化され、今では年間の大部分をカバーしている。

ペルーのブルーベリー生産者輸出業者協会(Proarándanos)によると、2024/25年度出荷シーズンの第43週まで(10月26日まで)に、ペルーは世界中に15万3,609トンのブルーベリーを輸出し、これは前年度に比べて44%多く、最近の予測を9%上回った。

輸出量のうち、13万7,424トンは慣行栽培のブルーベリーであり、前年比45%増で、10月の予測を9%上回った。有機ブルーベリーの出荷量も1万6,185トンに増加し、前年より38%多く、予測を9%上回った。

企業別の貢献度では、カンポソル社が1万9,372トンでトップとなり、総輸出の13%を占めた。その他の大きく貢献した企業は、1万4,928トンのアグロビジョンペルー社、1万4,010トンのコンプレホ農産業会社、1万1,344トンのホルティフルーツペルー社、8,195トンのアグロベリーペルー社等である。

輸出量の約52%にあたる7万9,491トンは特定の企業に属しておらず、これは輸出量のかなりの部分が小規模生産者のものであったことを示唆している。

エルニーニョ現象による課題を克服し、ペルー産ブルーベリーは米国市場での地位を取り戻した。今シーズンは8万1,471トンが米国に出荷され、昨シーズンの数値を52%、予測を10%上回った。

米国市場に入荷するブルーベリーの品種は多様で、未分類の新品種が30%で最も多く、ベンチュラ、ピロクシ、セコヤポップ、ロシオ、セコヤビューティーがそれに続いた。

フィラデルフィア港がペルー産ブルーベリーの米国への主要な輸入港であり、ポートワイニーミ、マイアミ、ロングビーチの各港及びニューヨークのジョン・F・ケネディ国際空港がそれに続く。

(ペルーの産地では)ラリバルタ県が米国への主要な輸出産地であり、ランバイエケ、イカ、リマの各県がそれに続き、ブルーベリーの輸出地域が幅広いことを示している。

全体として、ペルーのブルーベリー産業の堅調な業績は、製品の量と質の両方の成長に向けた持続可能で有望な未来を示している。

出典: [Blueberries Consulting](#)